

第 1 回コンクリート生産性向上検討協議会 議事要旨

1. 開催日時：平成 28 年 3 月 3 日（木）14:30～16:30

2. 場所：中央合同庁舎 2 号館 低層棟共用会議室 2A2B

3. 議事

- (1) 協議会の設置目的・規約について
- (2) コンクリート工の生産性に関する現状について
- (3) 生産性向上のメニュー・課題について
- (4) 今後の予定・検討体制について

4. 概要

- 生産性向上の方策を検討、実施するに当たっては、企業等の取組が企業の利益につながるような仕組みとすべき
- 当初コストが高くなっても、将来を通じて安くなるという説明ができることが重要
- コンクリート打設について、プロセスの自由度を高めるための仕様の緩和と品質保証の仕組みの構築が重要。これを進めるに当たっては、発注者、受注者における権限と責任をより明確にすることが、実効性の観点から重要
- 一人一人の施工効率向上のほかに、工期短縮や品質向上も生産性向上の指標と考えられる
- 復興事業ではプレキャストが多く使われたが、それらの信頼性に関するフォローアップが必要ではないか
- 施工の自由度を確保するために仕様規定を変更する場合、これにあわせた品質確保のルールの見直しが必要。例えば、スランプは、でき上がった品質にはかかわらないので、品質は例えば水セメント比や空気量等で確認
- 優れた工法を採用するための発注方式の記載があるが、設計施工一括発注と生産性向上との関係が不明確であり、契約方法の見直しの際には慎重な議論が必要
- すぐにやれることと時間のかかるものがあると思うが、大きな方向性を示して、検討を進めていくべき

第2回コンクリート生産性向上検討協議会 議事要旨

1. 開催日時：平成28年3月31日（木）13:00～14:30

2. 場所：中央合同庁舎3号館 4階特別会議室

3. 議事

- (1) 第4回 i-Construction 委員会（3/28）の概要について
- (2) コンクリート生産性向上を進めるための取組方針について
- (3) 要素技術の検討体制について
- (4) 品質規定の見直し（検査のあり方）について
- (5) 全体最適のあり方について
- (6) 生産性向上の事例について（羽田D滑走路の事例）
- (7) 今後の予定について

4. 概要

- i-Construction の報告書案では、「調査・設計から維持管理、更新までのプロセス全体の最適化を図る」としているが、本協議会では設計から施工までを検討対象としている印象を受ける。検討の範囲を連動させた方が良いのではないか
- どの要素が生産性向上に効き、どの対策を重点的に検討すべきか最初に戦略を立てることが重要。各要素技術の生産性向上効果については、最初に確認しておく必要がある
- コンクリート工の生産性向上のため、ガイドラインを作成し、各要素技術の活用を拡大していくことも重要であるが、実際のフィールドで効果検証していくことも重要。その際、トップランナーの実力をさらに引き出すために、コンペのような発注も検討していただくことが良いと考える
- 生産性向上効果については、工種毎に事例を見て評価するのが良いのではないかと
- これまで国交省等が進めてきた低炭素等の取組も含めて、全体最適について検討すべきではないかと
- 大型構造物のプレキャストだけでなく、現状場所打ちで普及している大型ではない構造物の標準化、プレキャストについても、検討対象とすべきでないかと
- 品質確保に関する好事例や失敗事例を整理し、使える事例が無いか検討していただきたい
- 工場製作の製品の品質は、工場毎にばらつきがある。検査方法の検討にあたっては、工場製作ということで一括りにしてしまわず、現状もきちんと整理する必要がある
- 生産性の高い技術を採用するためには、従来考慮できていなかったコスト以外の項目を評価する必要がある